

梅の花と龍馬



龍馬公園の東屋

2月は梅の季節。白木谷の梅が有名ですが、梅との縁が深い有名人に、あの坂本龍馬がいます。

龍馬先塋の地としてすでにファンにはおなじみの土地が、才谷龍馬公園として整備されました。地元住民の熱意に、市・県が動かされた結

果です。

才谷梅太郎という変名を使用していた龍馬は、大政奉還の1か月後、京都近江屋の母屋に盟友中岡慎太郎（変名を石川清之助という）と同席、「シャモ鍋で一杯やろう」ということで使いの若者がシャモを買いに出た後、「才谷先生を…」と訪ねた刺客に襲われました。

脱藩の際にも訪ねたであろう先祖の眠る才谷に、平成の時代を迎えた現在、その名を冠した龍馬公園が誕生しました。地元の万々の熱意は東屋建築、ゆかりの梅の植樹という形で現われました。

春には花、やがてその実は梅太郎漬けとして、全国のファンに届けられることでしょう。才谷川の龍馬橋を見つけたのも感慨深いものがありました。

また一つ、ここにも地域の発信源……。

市民・県民の意識は？①

一九九四（平成六）年七月に、文部省初等中等局小学校課の作成した「学校における同和教育指導資料」が、全国の市町村教育委員会に届けられました。

その資料の前書に次のように書かれています。（以下はその要旨）

同和教育の早急な解決は国および地方公共団体の責務であり、同時に全国民の重要な課題である。

このため一九六九

（昭和四十四）年同和对策事業特別措置法が施行されてから、二十五年が経過し、同和地区の劣悪な生活環境は大きく改善された。しかし、一方で結婚や就職に関連した差別事象は依然としてみられ、心理的差別の解消は十分でない。そこで今後は、教育・啓発等の推進がより一層重要な課題となってきた。

文部省でも学校教育および社会教育を通じて同和教育を

いま部落は、そと……。

推進してきた。それでも学校教育の場で、毎年二百件程度の差別事象が発生し報告されていることは極めて残念なことである。この事実をふまえ、部落差別の事例を取り上げ、同和教育推進上の留意点を示したので、本冊子を活用して

より一層の同和教育の改善、充実を図って欲しい。

文部省が具体的な事例を取り上げた資料を出したことは異例のことです。

その一部を紹介

同和教育 シリーズ

します。

「家族の偏見や差別意識が児童の言動に反映した事例（小学校）」

第五学年の児童三名が放課後、校庭の片隅で話している時、A子がB子を「明日、私の誕生日だから家へおいでよ」と誘った。

C子が「私も行っていい」と言うと、A子は「このことは誰にも言わないでね、おは

あちゃんに○○（○○は同和地区名）の子を家に連れてきてはいけなくて言われているの……。だからだめなの」と断った。

B子が「なぜ○○の子はいけないの」と尋ねると、A子は「よく知らないけど○○の人は、昔のええ、非人（ひにん）の人とは違うんだって」と言った。

この後、C子、B子は次のような感想を述べている。「C子」A子の話で、まだ差別があることを知って怖かった。

「B子」A子の話を聞いて腹が立ってたまらなかった。

さらに、この事例に対して①その背景・原因などを分析し、②具体的にどのような指導を行ったか、③指導に当たって特に留意した事、を詳しく説明しています。

